

実践報告

在学生のキャリア形成支援を中心とした 社会福祉専門職者との交流事業報告

長谷川武史^{1)*}、江連 崇¹⁾、藤木聖子²⁾、尾之内謙一²⁾¹⁾ 名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科、²⁾ NPO 法人南宗谷ひだまりの会

キーワード：キャリア形成支援、福祉人材育成、学生と専門職者の交流

1. はじめに

本実践事業の報告は、福祉領域への就職を志向する学生を中心としたキャリア形成支援を目的とするものである。学生が社会福祉士および精神保健福祉士の両国家資格の取得を目指していく際、これらの資格保持が実践上いかに必要であるのかという目的意識が重要となる。そこで、社会福祉士および精神保健福祉士養成教育の初期から福祉専門職者と関わる機会を多く設けることで、福祉領域での専門職実践のイメージを高め、学生が資格取得も含めた卒業進路を早期に明確化していくことをねらいとしている。また、本学が置かれている道北地域の各福祉事業所では、社会福祉士あるいは精神保健福祉士を有する人材を望む声が多く、本学を中心とした道北地域における福祉専門職養成校への期待は大きい。学生の在学中に近郊で働く専門職と関わる機会も現状少ないことから、本実践事業はキャリア形成支援と合わせて、学生と大学近郊の福祉専門職との交流の機会を設けることで、道北地域での卒業生の就職者の増加もねらっている。

2. 事業概要

本実践事業は、道北圏域若手福祉従事者研修ネットワーク(以下、若手ネットワーク)が主催する「第8回道北圏域若手福祉従事者ネットワーク研修会」との共催として2016(H28)年10月1日に実施した。若手ネットワークは、道北地域における様々な実践領域で勤務する専門職者と福祉専門職を志向する学生に対して研修・教育・交流の場を提供し、相互交流を図っていく場として2012(H24)年から活動を行っており、本実践事業の目的とも共通性があり、共催という形で実施した。近年は名寄市立大学と旭川大学において年に1回ずつの開催となっている。

なお、今回の研修会テーマは、「地域で展開する精神保健福祉の今」として全3部構成の研修会とした。本学社会福祉学部では、次年度の2017(H29)年度に精神保健福祉士養成を開始して初めての実習を控えており、精神保健領域に関する関心が学生の中で高まっている。その中で、若手ネットワークの担当者以下で以下の目的で各プログラムを設定した。

第1部では、浦河ひがし町診療所副院長の高田大志氏を招き、基調講演「浦河ひがし町診療所における精神障がい者支援とまちづくりについて」を実施した。町内の浦河赤十字病院で精神神経科を廃止したことに伴い設立された「浦河ひがし町診療所」において、全国的にも有名な「べてるの家」とともにどのように精神障がい等を抱えている当事者達を地域で支援しているのか、その実践内容を報告いただいた。

第2部では、シンポジウム「精神保健福祉領域における利用者支援の現状と道北地域のこれから」という



写真1 第1部の様子

*責任著者 E-mail:t-hasegawa@nayoro.ac.jp

テーマのもと、名寄市内の精神保健福祉領域実践者をシンポジウムとして招き、名寄市における精神保健福祉領域のサービス内容や多職種協働による実践内容を紹介いただいた。登壇者は以下の通り。

(シンポジスト)

- ・下房地 宏氏(名寄市立総合病院精神科リハビリテーション室)
- ・市川 大介氏(相談支援事業所そうだん屋)
- ・堀 希好氏(名寄市保健所)
- ・高柳 玲奈氏(就労移行支援事業所Liberta)
- ・矢北 美和子氏(自立訓練(生活訓練)事業所 緑ヶ丘、グループホームめぐむ)
- ・山田 英男氏(地域活動支援センターいきぬき)

(コーディネーター)

- ・柴野 武志氏(名寄市役所健康福祉部)
- ・長谷川 武史氏(名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科)



写真2 第2部の様子

第3部では、シンポジウム「社会福祉専門職とキャリア形成 ～若手専門職の実践の現状～」として、本学卒業生の中で社会福祉実践に従事する方を招き、現在の専門職実践の内容を中心に、学生時代の過ごし方やキャリア形成について報告いただいた。登壇者は以下の通り。

(シンポジスト)

- ・古川 優作氏(障がい者支援施設 ルンビニー苑)
- ・大平 隆太氏(名寄市地域包括支援センター)
- ・吹越 咲希氏(名寄市社会福祉協議会)
- ・泉山 理紗氏(社会医療法人北斗 北斗病院)

(コーディネーター)

- ・江連 崇氏(名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科)



写真3 第3部の様子

なお、当日参加者は表1の通りである。なお、1年生については全員を「ソーシャルワーク演習Ⅱ」の一環として、3年生の一部は「ソーシャルワーク現場実習指導Ⅱ」の一環として参加を位置付けていた。

一般	47
大学関係者	98
1年生	50
2年生	15
3年生	28
4年生	2
教員	3
計	145

3. アンケート結果

研修会終了後、アンケートを実施した。基本属性は表2の通りである。表3は研修会を知ったきっかけを尋ねた結果であるが、「職場(学校)からの案内」が最も多くなった。これは、本学学生の参加が参加者の中で最も多く、講義内で周知したことが大きく影響している。課題として、一般の参加として「知人からの案内」や「SNS(Facebook)など」などで知った者が少なかったことがあげられる。本事業を今後継続していく場合、学生への効果を考えても一定の専門職者の参加が不可欠であり、専門職者の参加を広く呼びかけていく工夫が必要となっている。次に、研修全体の感想を表4に示している。概ね研修内容に肯定的な感想が多く寄せ

られており、各プログラムの評価についての詳細は以下に述べる。

表2 アンケート解答属性

一般	9
高齢者福祉分野	1
障がい者福祉分野	5
児童福祉分野	1
教育分野	1
その他	1
学生	56
1年	28
2年	4
3年	20
4年	0
学年不明	4
不明	1
計	66

表3 研修会を知ったきっかけ

(複数回答)	
職場(学校)からの案内	59
知人からの案内	6
SNS(Facebookなど)	2
その他	1

表4 研修全体の感想 (複数回答)

参考、学びになった	55
仕事(学業)に意欲的に取り組む気になれた	21
福祉に対し前向きなイメージを持てた	18
福祉の仕事を頑張りたいと思えた	17
もっと講師の方々の話を聴きたい	15
福祉の仕事に希望が見出せた	7
福祉の仕事は大変そうだと感じた	5
同世代の頑張りが励みになった	4
研修内容が難しかった	1
学び得たものは少なかった	1

第1部の基調講演「浦河ひがし町診療所における精神障がい者支援とまちづくりについて」では、内容について、「良かった 63名」、「普通 1名」、「不満 0名」、「未回答 2名」という結果になった。

(自由記述抜粋)

- ・精神障害について知らないことが多かったけれど様々な知識を得ることができ興味をもてた。(1年生)
- ・心がまえや、考え方の柔軟さの必要など学べたことが多かった。教科書には載っていない活動している人の声を聴けたのはすごく勉強になった。(1年生)
- ・あまり精神障害について興味が無かったが、実際の映像を見て、現状を知ることができ関心が湧いた。(1年生)
- ・精神疾患の方たちと将来PSWとして関わる際に、活かしていきたいと思える点が多かった すごく参考になった。(3年生)
- ・病棟を閉鎖したこと、またその背景を聞き、新鮮に感じた。まちづくりについて地域住民の方々と関わりを持ちながら、地域の特性を活かしながらの活動をしていることがわかり、その効果も精神障害者の方にでていのではないかと思います。(3年生)
- ・病院で考えられがちな事、出来ない、無理という事は、施設においても言える事だと感じた。支援者において、視野を広げるといふ事は重要と感じた。(一般)

(その他、37件)

学生からの意見では、精神保健福祉領域への興味関心を高め、学びを深めるきっかけになったという意見が多くあげられていた。

第2部のシンポジウム「精神保健福祉領域における利用者支援の現状と道北地域のこれから」では、内容について、「良かった 59名」、「普通 4名」、「不満 0名」、「未回答 3名」という結果になった。

(自由記述抜粋)

- ・様々な仕事の現状を知ることができて良かった。関係職種との関わりが大切だと感じられた。(1年生)
- ・名寄についての理解も深められ、また様々な多職種の関わりを実際に見られたので良かったです。ピア

サポーターの言葉も深く、とても心に残りました。(1年生)

- ・名寄市の福祉について理解できた。多方面から支援していくことの大切さが分かりました。(1年生)
- ・今まで、社会福祉士になりたいと考えていても、なかなか具体的な仕事内容がみえてこなかったのも、とても良い経験になりました。また、やりがいのある仕事だと、現場の方々からきけて、やる気や希望がでてきました。(1年生)
- ・専門職同士の横のつながりを感じられて良かったです。(2年生)
- ・精神障害(その他にも)に関する事業所の流れや活動・業務を改めて学べて、知らない事が多かった事を実感しました。(一般)

(その他、35件)

専門職連携に関すること、名寄市のことなど様々な視点での学びがあったことが挙げられていた。一方、シンポジウムの展開方法としていくつか指摘もあげられており、今後の事業継続の参考としていきたい。

第3部では、シンポジウム「社会福祉専門職とキャリア形成 ～若手専門職の実践の現状～」では、内容について「良かった59名」、「普通3名」、「不満0名」、「未回答4名」という結果になった。

(自由記述抜粋)

- ・今何をやっているかということよりも、今(私たちが)何をやっておくべきだということを知れたら良かった。(1年生)
- ・まだ一年生なので就職や具体的な職場を考えていなかったけれども活動などが聞けてよかったと思う。(1年生)
- ・まだ1年生で学生生活、勉強、就職などたくさん不安がありましたが、先輩方も同じような気持ちで同じような経験をして、たくさん苦勞をのりこえていったのだと聞き少し安心しました。(1年生)
- ・シンポジストのお話で、私と同じ苦手意識を持っていることを知って、就職してから自分の苦手なところが障害になるのではないかと感じていたので働きながら苦手は克服していけばいいのだと思えてよかったです。(3年生)
- ・大学の卒業生が実際に現場に出て感じたことや、経験した話を聞き、自分達の学んだ事がどれ程役立てられるかを知れた。それにより、更に福祉について学ぶモチベーションが上がった。(3年生)
- ・OB・OGの発信は同世代の現役の学生には、より近い感覚・言葉などひびくものがあるのではないかと思います。難しい話より、身近な方々の発信は大切だろうし、こういった機会は今後も続けていてもらいたいです。(一般)

(その他、33件)

各シンポジストの学生生活の様子や学びがどのように現在の専門職実践につながっているのかを聞くことで、参加した学生たちが今後の大学生活の過ごし方を具体的に考えるきっかけになったと考えられる。

4. おわりに

本稿では、学生の福祉領域に関するキャリア形成支援および道北地域における就職者の増加を目的として実施した研修会事業の概要と評価について報告した。アンケート結果を見ると、参加した学生に対しては、一定のキャリア形成支援効果があったと考えられる。しかし学生の参加人数に比べ一般参加者としての福祉専門職者は少なく、今後、福祉専門職者の参加者数を増やしていくことでこの効果をさらに高めることができる可能性がある。今回得られたことを踏まえ、次年度以降の事業実施につなげていきたい。

今後、政府や厚生労働省が進める「新福祉ビジョン」、「ニッポン一億総活躍プラン」および「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部」では、小地域単位での地域包括ケア、地域共生社会の実現が今後の社会の

